

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 4 年 2 月 28 日

公表:令和 年 月 日

事業所名 放課後等デイサービスこのき尾張旭校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			狭く感じるがあるので、空間の使い方を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	8		職員配置数は適切である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	5		該当児がいないため、バリアフリー化はできていない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2		共有と振り返りは定期的に行っているが、サイクルを明確にしていない。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	ご意向を確認し取り入れている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3		外部評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		毎月研修に参加している。	今後も参加していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		必ずモニタリングを行い、それに基づいて作成している。	今後も必ずモニタリングを行う。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2		標準化されていないので、今後の課題にしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		一部の職員で活動プログラムを決めている。今後は全職員での話し合いをしていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		季節に合わせてプログラムを考えている。	同じような内容でマンネリ化しないようにする。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		平日と休日で活動内容を変えている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1		活動内容は個別活動と集団活動を組み合わせているが、サービス計画の作成は不十分。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		打ち合わせ時間を毎日決めて行っている。	今後も徹底していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1		打ち合わせや振り返りができない日がある。よりよい支援のため、振り返りの時間を必ずつくっていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		記録を取り共有している。	今後も徹底していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		定期的に相談室でモニタリングを行っている。	今後も徹底していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	1		今後確認する。

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2	会議があれば参画している。	今後も継続していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		主に送迎時に行っている。	学校によっては共有が薄いところがあるのでこちらから確認を進めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	5		該当児がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2	書類でのやりとりはある場合がある。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	4		開所後、サービスを移行した前例がまだない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3		機会があれば積極的に受けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	4	コロナウイルスの流行以前は交流があった。	流行が収まれば、再開していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	7	参加できていない。	今後は機会があれば積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	ミーティングを毎月行い、課題を議題にしている。	今後も徹底していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	6		家族支援プログラムを行っているわけではない。今後の課題にする。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	契約時に相互理解ができるまで確認している。	今後も徹底していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		相談などあれば必ず対応している。	こちらからの発信は今まで少なかったため、ご意見など聞いていく体制をつくる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	5	コロナウイルスの流行以前は定期的に開催していた	流行が収まれば、再開していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		相談などあれば職員用の共有ノートに記載するなどしている。	今後も継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	2		ホームページへのブログ記事の更新が止まっているので、定期的に更新をしていく。
	35	個人情報に十分注意している	8		書庫で個人情報を保管している。	今後も徹底していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		それぞれの利用者様に配慮している。	今後も徹底していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3	コロナウイルスの流行以前はイベントを行っていた。	流行が収まれば、再開を検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	作成している。	保護者様への共有は不十分なところがあるため、今後検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	毎月避難訓練を行っている。	今後も継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	ミーティングなど毎月行っている。	今後も継続していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8		身体拘束について、児童発達支援計画書に現在記載をすすめている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	情報共有しマニュアルを作成している。	今後も徹底していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	作成して共有している。	今後も徹底していく。